

マドリッド、グラナダ&ローマ紀行

○ プロローグ

今年の（2009年）3月の段階で、6月に、一昨年、ニューヨークに、一緒に行ったYOさんとのメキシコシティ行きのホテルの予約から入金、JALの航空切符まで買って、如何に、スペイン語が、通じないかを体感しようと、楽しみにしていたが、4月ごろからか・・・、いきなり、メキシコで、新型の豚インフルが、流行、世界中に、広まり、日本でも大騒ぎになってしまった。それで、次女が、12月にお産で、帰ってくるが、その前にも、何度か、我が家に帰ってきて、病院通いするとのことで、カミさんの強権発動があり、やむなく、キャンセル。

しかし、今では、（8月17日（月）現在）日本でも、普通のインフル並みの扱いになっているし、（日本でも、透析の病気持ちの方が、初めて亡くなったなど、報道されているが、）そんなに、気にすることもなく、海外旅行が、禁止されている訳でもない。次女から、『私が、帰る来年の2月までは、海外旅行は、止めてください！』と頼まれてはいるが、どうも、我々親父は、免疫があるようだし、最悪時の安全弁として、近所の奥さんと二人きりで、（息子さんが、下宿しており、）同じく暮仲間のKHさんと一緒に、三人で、暮を打ちながら、行けば、私も、新型インフル貰えば、KHさんも同様なので、どうせ、二人とも会社にも行けないだろうから、その時は、彼のマンションで、治るまで二人で暮を打っていけば、良いかと、YOさん、KHさん、私と3人で、マドリッド、グラナダ、ローマと（当初は、プリテッシュ・エアウェイが、HISでは、一番安く、ロンドン一泊の予定だったが、航空券が取れなくて、イタリアのアリタリア航空で行くことになった。）10月8日（木）から、14日（水）まで、三人でのヘボ暮を打ちながらの野次喜多道中をすることとした。

また、8月の段階では、怖くてカミさんと家族には、話しておらず、行く段階になったから、話すこととした。日程は、以下のとおりで、2人に、メールした。

マドリッド、グラナダ、ローマの日程

1. 出発：平成21年10月8日（木）成田13：20分発 AZ785（イタリアのアリタリア航空）
2. 10月8日（木）19：00ローマ空港着、21：15分発 AZ064便のマドリッド行きへ乗換え、マドリッド、23：45分着。地下鉄で、Hotel Regenteへ。
（Aeropuerto駅→Nuestros Ministerios駅（乗り換え）→Alonso Martinez駅（乗り換え）→Gran via駅降車、徒歩でHotel Regenteへ。

(アドレスは、Mesonero Romanos 9 Madrid 28013 Spain) (日本からの、連絡は、001-010-34-915-212-941) 到着が遅いが、地下鉄で間に合うか、試して、駄目なら、シャトルバスまたは、タクシーで、ホテルへ。

3. 9日(金) マドリッド市内見物。

4. 10日(土) マドリッド アトーチャ駅、9:05分急行列車でグラナダへ
13:42分、グラナダ着。

宿泊先は、Hotel Alixares ホテル・アリハレス。

(アドレスは、Paseo De La Sabika No 40 Granada 18009 Spain)

(日本からの連絡は、001-010-34-958-225-575)

グラナダ市内見物(アルハンブラ宮殿中心:17:30からの入場券入手済。)、夜は、フラメンコの見られる店で夕食。

5. 11日(日) 9:45分の急行列車でマドリッド戻り、14:29分着。

市内観光、Hotel Regente泊。

6. 12日(月) 午前中、一箇所見物、12:35分発、AZ061便で、ローマへ。

7. 12日(月) 15:05分、ローマ空港着、レオナルド・エクスプレスで、テルミニ駅へ、そこから、地下鉄で、終着駅のアナーニナ(Anagnina)駅へ、徒歩で、Hotel Arcadia(ホテル アルカディア)へ。

(アドレスは、Via Campo Romano 75 Roma 00173 Italy)

(日本からの連絡は、001-010-39-067-230-229)

地下鉄で、ローマ市内へ戻って、どこか、一、二箇所市内見物。

8. 13日(火) 午前、午後、ローマ市内見物。

9. 13日(火) 21:50分ローマ空港発のAZ7788便で成田へ。

10. 14日(水) 16:55分成田着。

ここまでは、私が決めて、詳細のスペインの行程は、KHさん、ローマの行程は、YOさんに、任せることとした。 航空料金、グラナダへの往復特急料金、ホテル代、一人当たり、17万、400円也。

やっと、8月下旬に、カミさんに、話したら、予想通り、“信じられない!” “もう、ズ〜と帰って来なくていいです!” と猛反発を食らったが、ここは、“もう、5年間もスペイン語を勉強していることだし・・・我々親父は、雇らんようだし、最悪貰ったら、近所のKH家で暮を打ちながらでも静養して、治るまで、家には帰りませんので!” と、一方的に押し切った。ここ、しばらくは、カミさんの無言抗議生活の毎日を耐えなくてはならないが、これで、何とか、出発できそうである。

○ 10月8日(木) 出国、マドリッドへのつもり？

数日前から、台風8号が、日本上陸の兆しで、どうなるか、気になっていたが、昨日から、日本列島縦断中。東京に、最も、近づくのは、午前中の模様。朝から、雨風が強くなってきたが、電車は、間引きではあるが、動いているようなので、KHさんと携帯電話でやり取りして、予定より、30分早く、昭島駅に待ち合わせた。三女が、幼稚園に、子供たちは、台風で休園だが、先生は、出勤の為、カミさんが、車で送ってゆくとのこと、ついでに、昭島駅まで乗せて行ってもらった。

二人で、少々、電車を待ったが、立川駅までは、直ぐ着いたが、何と、中央線が止まっている。西武線は、動いているので、慌てて、拝島駅まで引き返した。混雑したが、無事、高田馬場まで、何とか着いた。何と！ 今度は、山手線が動いていない。これまた、慌てて、地下鉄で、上野駅まで、混雑の為か、大分遅れたが、上野の京成電鉄の駅には、11時過ぎには、着けたので、既に、成田空港に着いているYOさんに、『多分、12時半ごろには着けると思う。』と電話を入れた。しかし、今度は、京成線も、電車が、台風の強風の為に、(雨は、無く、強風のみ。)遅れているらしいし、スカイラインは、運休している。やっと、特急が、入って来たのが、11時半頃、混雑の乗客が降りて乗り込んだが、中々、発車しない。40分過ぎに、発車したが、これまた、強風の為か、電車が、度々止まって、先に進まない……。刻々と、時間が過ぎて行き、KHさんと二人で焦るも、どうすることも出来ない。再度、YOさんに、携帯電話入れるも、返事が無い。HISのお姉さんに、電話で助けを求めたが、緊急連絡センターに、電話してくれとの返事。佐倉駅辺りで、YOさんから、悲鳴の電話が入った。『今、チェックインカウンターで、待ってもらっているが、今どこ？』『今、佐倉駅近辺。』答える。

やっと、成田空港第一ターミナル駅に着いて、KHさんと二人で、急ぐが、KHさん、京急の切符をポケットなど探すが、見つからなくて、イライラ焦る中、二重払いで降りた。急ぎ、北ウィングのアリタリアのチェックインカウンターに、着いたのが、13:35~40分頃で、YOさんの頑張り、30分まで、引っ張って貰ったらしいが、飛行機は、既に、もう飛んだ後……！

今回は、YOさんの頑張りもあり、自然災害なので、明日の同時刻の飛行機は、確保して貰えた。HISのお姉さんにも、乗れなくて、明日になった旨、電話した。その際、『ホテルには、電話をした方が良いでしょう。』と言う貴重な助言を貰ったのであるが……。三人で、空港ビル内のマックのような店で、昼食、高くて余り美味しくないハンバーグとオレンジジュース注文して食べた。三人で、京急で上野駅まで戻り、駅前の碁会所へ。三人で、換わりながらの碁を打った。夕刻、上野駅近くの養老の滝で、出発前祝い酒と洒落込んだ。

教訓1. 台風等気象異常時等の場合は、空港、特に国際線は、通常の2倍以上の時間的余裕を持って行くべし。

○ 10月9日（金）出国、マドリッドへ。

昭島駅は、昨日と同じ、8時半待ち合わせ、既に、KHさんは、来ていたが、毎朝、低血圧で、調子が悪いらしい。今日は、通常運転なので、難なく、上野駅まで。昨日の空港での昼食が、高くて不味かったので、YOさんの分も含めて上野駅で、駅弁とお茶を買って京急の上野駅から、空港へ。YOさんは、既に来て待っていた。もう相当、客が、チェックインしているので、同列の座席確保が、難しそうだとのこと。待合室のベンチで買って来た弁当で昼食。安くても、それなりに美味かった。

長時間の飛行なので、時間つぶしに、暮を打ちながらの飛行と、三人同列の席を確保するべく、多少は、早く来たつもりが、他の人達は、もっと早く、残念ながら、三人バラバラ……。YOさんは、窓際で、私は、真ん中の席……。KHさんは、かなり、離れてしまった。私の隣の窓際の女性に、YOさんの席と替わって貰えませんかと頼むと、何と！ 丁度、YOさんの列は、彼女の家族達で、相互に、ラッキーな席の交換となった。しばらく、飛行機が、安定するまでは、外の景色など眺めていたが、飛行が、安定すると、早速、延々と暮を打ち出した。当初は、五分五分だったが、その内、私の負けが込みだした。食事時は、当然、“ピノ・ビャンコ”（白ワイン、これ、イタリア語。）カミさんが、実家の姉弟姪と今年の春に、オランダ、パリ等行った際に貰ったスリッパを借りて来たが、飛行機の中で（ホテルでも）結構役に立った。

私の左隣のお姉ちゃんは、仙台の料理学校の生徒の一人で、周りは、同じグループの仲間と一緒にとのことで、ローマから、シシリー島に飛んで、そこで、イタリア料理の実習をしに行くとのこと。“では、イタリア語は、話せるの？”と聞くと、“全然！”とのことで、毎年来ている先生が、旨いらしい。塩野七生のローマ・シリーズ等の小説が、面白いのは、彼女は、イタリア語の原書を沢山読んでいるからだろうし、そういう意味からも、イタリア語勉強したらなどと、年寄り染みた話をしたが、このお姉ちゃん、塩野七生の小説など読んだことあるのだろうか？

ローマ空港でのトランジットも、2～3時間あって、その間も、待ち時間は、“暮”確かに、暮を打っていると時間の立つのが早く感じる。ローマから、マドリッドまでは、2時間程度で、夜の12時近くに、マドリッドに着いた。地下鉄が動いているか、分からなかったが、三人で、地下鉄のマークを目指してどんどん進むと、12時過ぎても、（スペインの夕食は、9時頃からなので、）スペインは、夜の長い国だけあって、地下鉄は、夜中の2時過ぎまで動いている。自動切符売り場では、買い方分からないので、改札オフィスの駅員に、“キエロ イル グラン・ピア”（グラン・ピア駅まで行きたい。）と、聞くと、地下鉄の乗換駅の2箇所をマークしてくれて地下鉄の地図をくれた。

最初の乗り換え駅では、プラットホームで、若いお姉さんに、“オイガ セニョリータ、プエド イル ツリプナラル エスタシオン？”と地下鉄の地図見せながら、次

の乗換駅に行くか聞くと、反対側のプラットフォーム・ホームを教えてくれた。“危ない、危ない！”二度目の乗換えのツリブナル駅のプラットフォームで、来た地下鉄内は、少々込んでいたが、日本での混雑の列車は、慣れているので、不用意に、地下鉄に乗り込んだ瞬間、KHさんが、“やられた！”との叫び！ どうしたと聞くと、目の前のポシェットのチャックが開けられており、“パスポートとeチケットをいれたビニール袋を取られたとのこと！ 私のポシェットを見ると、やはり、チャックが開いていて、一緒に、パスポート、財布も入っていたが、今思えば、アホなスリで、パスポートのケース入れとスイカの定期券の入れ物ごと（中には、スイカの定期券カードと古い社員証が入っていた）取られた。私は、変な動きする客がいるくらいしか、感じなかったが、KHさんは、相手の顔も覚えていて、髪を立てた中東系の男女の3、4人のグループとかで、我々と一緒に乗り込み、瞬間的にスって降りて行ったらしい。確かに、KHさんと揉み合うような動作は、私も目撃したが、スリにあったとは、（私自身も！）思いも寄らなかった、ほんの2、3秒の出来事であった。

KHさんは、マドリッドを良く調べており、スペインでは、パスポートも狙われるらしいと言っただけに、そう言っていた本人が、パスポート取られた為、相当にショックを受けたようである。（その後、グラナダへは、三人一緒に、地下鉄を使ったが、この際のトラウマのせいかな（？）、一人での13日（火）の移動のグラン・ビアのホテルから、日本大使館、空港へは、タクシーを使って帰国したとのこと。）

教訓2. 危険と言われている国の夜の地下鉄は、絶対に乗らないこと。

（マドリッドの昼は、お巡りさんが大勢いるので地下鉄も安心そう。）

教訓3. 貧乏人の格好をしていれば、ドロボーも近づかないという私のジンクスも、これで、破れ、世界には、貧乏人からも奪う奴がいることを銘記すべし。

さて、どうするか？ まずは、ホテルで考えようと、次の駅のグラン・ビアで降りる。夜なので方向が分からず、通りがかりのアベックに、地図見せながら、“ドンデ エステ オテル？”聞くと“ I don't Know! とアメリカ人のよう。次に通りかかった青年に聞くと分かるらしく、三つ目の通りで、一緒の方向なので、付いて行った。ホテルは、直ぐ近くで、” グラシャス、アディオス！ “と別れた。

ホテルのフロントには、先程のアメリカ人のアベックが先に来ていた。“High! We are looking this hotel.”と笑いあった。彼らのチェックインが終わって、アップルワールドの予約表を見せると、我々の部屋は、既にキャンセルされていて、部屋は無いとのこと！ 確かに、8日の日に、HISのお姉さんに、助けを求めた電話で、ホテルに電話を入れるよう忠告は受けていたが、携帯では、掛からないし、どうせ、部屋など空いているだろうと、ほって置いて、忘れてしまっていたが、昨日は、来なくてキャンセルだし、今日も、“朝に電話が無いのでキャンセルした”とのフロントの早口の職人気質の気の良さそうなメガネのお父さんの話は、もっと

もなので、反論のしようが無い。若いお兄さんと、メガネのお父さんと、二人で、方々、ホテルに電話をしてくれたが、中々、簡単には、見つからないとのこと。三人で、このフロントのソファで夜を明かすかなどと日本語で話しているのが、分かったのか(?), その内、少々離れたところの通りのホテルが見つかり、地図で説明聞くと、分かり難い。私が、分かり難くて、難しい顔をしていた為か、そうこうするうち、すぐ隣の通りのホテルを探してくれた。

教訓4. 夜遅くなる場合は、予約のホテルには、電話を入れるべし。

(これ、当然過ぎる?)

この“Hotel Regente”は、11日に、再度、泊まるので、11日の確認をして、“ムチャス・グラッシャス アディオス!”と言ってホテルのお父さんに、別れを告げ、隣の通りの“High Tech Clipper”というホテルは、直ぐ分かった。狭いフロントには、若禿げ気味の黒っぽいシャツのお兄ちゃんが待っていた。“クアント エス?”と値段聞くと、139.1ユーロと半端な値段。一人、約50ユーロで、まあまあか。フロントのすぐ近くのNo5の部屋で、三人目の折り畳みのベッドが、お兄ちゃん、中々、設置できない……。明日の朝の9:05分の急行乗り過ごさないように、“ノス プエデス デスペルタール ア ラス シエテ。”(明朝、我々を、7時に起こしてください。)と頼んだ。

私とKHさんは、スリ被害の興奮と時差ぼけで、中々、眠れなかったが、体を休めようと、うとうとは、何度かしていた。被害にあってないYOさんは、気持ちよさそうな寝息立てながら、熟睡していた。

○ 10月10日(金) グラナダ観光

起こされる前に、フロントに、“メ エ レバンタド。”(起きました。)と起きた旨伝えに行くと。“モーニングコール予約は、キャンセルか?”と当たり前のことを聞いてきた。“ア ロバド ス パサポルテ。”(友達のパスポート取られてしまった。)ので、“アイ エル プラド デ アンバハドール ハボンネサ?”(日本大使館の地図は、ありますか?)と聞くと、フロントのPCのインターネットで、日本大使館を探して、(High Techの意味は、フロントにも、各部屋にも、PCを完備しているから、らしい。)何も言わず、電話を掛けてくれて、大使館の緊急連絡センターまで、電話を回してくれ、緊急連絡センターのおばちゃんの日本語になった時点で、“ほい!”という感じで、電話を換わってくれた。パスポートのコピーを持っていたので、盗難パスポートNoやら、被害者の連絡先(携帯電話を持ってない旨、言ったら、なぜか、このおばちゃんに、呆れられた感じ?)話が長く、途中、お兄ちゃんの指示で、電話を子機に換わったりしながら、その内、英語を話すお姉さんが、フロント内にも来たので、フロントのお兄ちゃんは、私が、スペイン語を話すと思っているので、相当、早口のスペイ

ン語で話し掛けてくるので、分からない際は、お姉さんに、通訳してもらって助かった。
緊急連絡センターのおばちゃんの仮パスポートの発行手順は、以下のとおり。

- ① Denunci (デヌーンシ、警察所への盗難届) を貰ってくること。
- ② 本人が行くこと。
- ③ 写真二枚用意して行くこと。(縦4. 5センチ、横3. 5センチ)
(コインを入れての写真は、NGで、ちゃんとした写真館での写真とのことで、大使館の近くにあるとのこと。)
- ④航空券(eチケット)を持って来ること。(一緒に、スラしたが、たまたま、私が、コピーを持っていたので助かった。)
- ④ 直接、マドリッドから、その日のうちに、成田に帰ること。
- ⑤ 手数料17ユーロの現金を持参すること。

教訓5. パスポート紛失時は、世界中共通のようで、上記6点、銘記すべし。

12日(月)は、何故か、スペインも休日で、13日(火)に、日本大使館が開くので、緊急連絡センターからも、大使館には、一報入れておくので、朝一番の9時半までに行くようにとのこと。午後には、仮パスポートを貰えるとのこと。

対応が、決まったので、KHさんと私が、50ユーロ、YOさんが、40ユーロ払って、“ケデセ コンラ ベルタ!”と小額のチップを弾んで、ここでも、“ムチャス グラシャス、アディオス!”とお礼を言ってホテルを出た。マドリッドの朝7時頃は、まだ、薄暗い。グラン・ビアの通りは、繁華街で、朝でも、お姉さん達が、“チノ?”と中国人かと話しかけてくる。“ノ! ハポネス!”答えて振り払うように、早足で通り過ぎた。駅前のマックは、まだ開いてないので、通り過ぎ、地下鉄で、アトーチャ・レンフェ駅まで、直ぐ着いた。

駅構内のカフェテリアで、お姉ちゃんに、“ボカディジョ デ ハモン イ スモ デ ナランハ!”とハムサンドイッチとオレンジジュース頼むと二人も、“Same!”と同じものを頼んだ。スペイン語では、“イズモ(マ)”が、“同じもの”の意味であるが……。

列車の待合室に入るのには、テロの影響か、X線の荷物検査がある、航空機ほど厳格ではなく、リックのみ、X線検査を通した。待合室は、かなり広く、改札口に居る男女の駅員に、チケット見せながら、“デ ケ ビア サレ?”と何番線発車か聞くも、要領を得ない。インフォメーションセンターが、あったので、同じように、チケット見せながら、同じ質問するも、再度、前の電子掲示板指しながら、何か言っているが、分からない。“アブラ イングレッセ?”と英語が、話せるかと、ツンと澄ましたおじさん係員に聞くと、“No!”の返事。すこし後で分かったが、列車は、最初から、到着プラットフォームNo.が、決まっている訳ではなくて、到着30~40分前くらいに、飛行機と同じように、電子掲示板に、何番線かを表示する。我々の座った待合室の隅の方

の電子掲示板にも、表示している。30分前位から、8番線だったかに、表示されて、改札の列に我々も並んで、プラットフォームへ。最初、5号列車の4B, 4C, 4D席かと思ったら、既に客のおばちゃん達がいた、チケット見せると、“セイス(6)”と指摘され、我々は、6号車だった。4Bの隣は、中年のおばさんが、既に座っていたので、私が、4B席に座った。



(我々の乗り込んだ列車(?), KHさん提供。)

新聞、雑誌を盛んに見ていたが、ここは、“オイガ・セニョリータ!”(ちょっと、お嬢様!)とおべっか使って話しかけた。”カントス ペルソナス プエデン ベールメ?“と(何国人に見えますか?)と聞いてみたが、答えられなかったので、”ハポネス・“(日本人)と答えて、更に難しい質問の”カントス アニオス パレスコ コモ?““(私は、何歳に見えますか?)と質問するも、私のスペイン語が通じないのか、質問が、難し過ぎたのか、分からなかったが、答えられないので、”ソイ セセンタ イ ウノ アニオス。““(私は、61歳です。)と答えたが……。”ティエネス イホス?(お子様は、いますか?)から、やっと、会話が成り立ちだした……。男女二人だったか。私は、“テンゴ トレス イハス。”(私は、三人娘です。)”エン デシエンブレ デ エスタ アニョ エル ニエト デ ラ セグンダ イハ ナセ イ メ ブェルボエル アブレロ。”(今年の12月には、次女が、孫を生むので、私は、おじいさんになります。)”と、下手なスペイン語を話したが、何とか、通じたようである。隣のKHさんが、我々の話しているのを見て、”フォト・OK?“とか何とか言いながら、私は、自分自身の写真は、嫌いなのであるが、おばちゃんとの一緒に写真を撮ったりしていた。おばちゃんは、次のコルドバで降りていった。一応、グラシャス、アディオス!”と別れた。コルドバからは、おばあちゃんが、乗り込んできた。スペインのこの辺は、台地が続くせいか、緑といえば、オリーブの木ばかりのようであるので、車窓から、緑の木々を指差し“アセイテ?”(オリーブ油)と聞いてみたら、“オリボ”(オリーブの木)と教えてくれた。コルドバ、グラナダ等この辺では、オリーブの料理が美味しいらしい。料理名を覚えてくれたが、聞いた瞬間から、私の頭から、跡形も無く、消えていた。途

中から、席を、KHさんと代わって、列車の中でも、YOさんと打ち始めた。やはり、暮を打っていると時間の立つのが、早い。いつの間にか、グラナダに着いていた。



(車窓からのオリボの畑?)

グラナダの街は、思っていたほど、大きくは無い。石造りの街並みが続くが、高層ビルは、見当たらない。駅前のタクシー待ちの列が出来ていたが、何台目かに、乗れた。荷物を後ろのボックスに入れて、ホテルの地図を見せながら、乗り込んだ。この運ちゃん、ペルー人とかで、子供は、男の子二人だったか、まだ小さいらしい。一応、この程度のスペイン語は、通じる。車が多いので、狭い路地など抜けながら、あれが、カテドラル(教会)だ、など教えながら走る。アルハンブラ宮殿の入り口近くの坂の中腹に、今回の“ホテル・アリハレス”は、あった。正に、アルハンブラ宮殿の入り口の隣と言う感じである。



(グラナダ駅)



(KHさん提供)

大きな部屋の343号のキー渡されて、ロンドンと同じで“3”は、日本の4階である。エレベーターで4階まで。エレベーターのボタンも、ここは、“3”を押す。やはり、アップルワールドの推奨ホテルは、中々、快適である。バスタブも大きい。昼食が、まだなので、ホテルの近くのレストランへ。料理が、写真入で分かり易い。二人は、肉

料理頼んだが、私は、野菜サラダと、魚料理。当然、“ウナ ボテジャ デ ビノ ブランコ”（白ワイン、ボトル一本）。KHさんは、体調悪いとかで、余りの飲まず、割り勘負けか。ここでも、ボーイが、試飲しろと私に注いでくる。分からないが、分かったような顔して“ブエノ”と答える。



（グラナダ市内、ホテル・アリハレス、KHさん提供）

アルハンブラ宮殿の入り口は、直ぐであるが、インターネットでの予約票、受付に見せるも、ここではないと、奥の方の建物を指差す。建物の近くに行くも、別の入り口があるのかと、一度通り過ぎて進むも、入り口らしきものが見当たらない。また、係員のお兄さんに聞くと、先程の建物指差す。大分、ウロウロしたが、建物の中の自動発券機を使ってチケットを発券することが、やっと分かった。プリントした予約票のNoと私のクレジットNoを入力すると三人分のチケットが出て来た。

宮殿内は、かなり広い。庭園やらが、やたらと多く、建物、砦、宮殿よりも、庭園が多そうである。階段、坂を登ったり下りたりが、多いためか、途中から、KHさん、ばててしまって、ベンチで待っているとのことで、YOさんと二人で回った。



（アルハンブラの中庭、宮殿、嘗ては、800年間もアラブが支配していた象徴）



(砦の屋上から見た市内)



(何故か、結婚式も行うらしく、花嫁がいた、その付き娘、KHさん提供)

写真も、何枚も取った。広い宮殿の中庭やら、建物を大分回ってから、YOさんが、アルハンブラ宮殿の最も有名な“ライオンの中庭”が、何処か、係員のおじさんに、聞いてくれとのことで、“ドンデ エル パシオ デル レオン エスタ？ (ライオンの中庭は、何処ですか?)”と聞くと、もと来た方向を指差して教えてくれた。はっきり分からなかったが、戻ると、行列が出来ていて、そこから入るらしい。係員のお姉さんに、チケット見せると、我々は、もう、時間が過ぎていて、入れないとのこと！。ニューヨークの時と同じで、肝心のメトロポリタン美術館が、休館で入れなかった時と同じように、また、YOさんが、嘆く！ 私は、得意の”また、来ればいいさ！”の心境。

KHさんが、ベンチで休んでいるので、もう帰るので、二人で迎えに行ったが、彼のいる砦のような地区の中庭には、係員が、入れてくれない。通じたかどうか疑問だったが“ミ アミゴ エスペラ！（友達が、待ってる！）”と言ったら、私だけ通れたので、YOさんには、外で待っていて貰った。迎えに行くと、KHさんも、丁度、出てくる途中で、三人で、入った時の、入り口から出た。YOさん、もう一度、『ライオンの中庭』を見たくて、もう一度、入場するとか、戻ったが、我々が、お土産屋さんを見ている間に、入らずに戻って来た。

スペインは、夕食が遅い為かどうかは、確かめなかったが、写真付きメニューの有るお昼を食べたレストランは、卸戸が降りていて閉まっているので、ホテルのレストランで夕食を食べることにした。“ドス サラダ ヴェルデ トレス ペスカド デ ツナ ウナ ポテジャ デ ビノ ブランコ イ ズモ デ ナランハ “(野菜皿で二人前、ツナの魚料理、三人前、白ワイン一本に、オレンジジュース (KHさん用)) を頼んだ。” デ ポストレ “に、” カフェ デ コンレッチェ “三人前頼んだ。” パン “もと聞いてきたので、パンも、三人前頼んだ。ここでも、私に、メニューの中で一番高い白ワインを頼んだので、試飲しろと注いでくる。これまた、良く分かる訳ではないが、アルハンブラ宮殿を充分歩き回ったので、当然美味しく感じるので、” ムイ ブエノ “と答えた。

まあまあ食事ではあったか。

バスタブが、大きく、やっと、ゆっくり、お風呂に入ることが出来た。今日は、歩き回って疲れたし、気持ち良く眠れた。

○ 10月11日（日）マドリッドへの戻り。

ホテルのフロントのお姉さんに、タクシーを呼んで貰った。髭面の年配の運ちゃんが来た。得意の“カントス アニオス パレスコ コモ？（何歳に、見えますか？）”と聞いたが、日本人は、彼らには、難しすぎて、答えられなかったので、つい、”セイシエントス イ ウノ アニオス “(601歳?)と”セセンタ (60) ”と言うところ、“セイシエント” (600) と答えてしまったので、運ちゃんと、大笑いになった。

子供は、男二人だったか、どちらかの息子の恋人(ノビア)は、日本女性だとのこと。ここでも、“ケデセ コンラ ベルタ”とチップを弾んで降りた。40分~50分の待ち時間があったが、待合室で待つことにした。“デ ケ アンデン サレ?”と何番線のプラットホームか、切符見せながら、聞くと、改札を出て直ぐ手前のプラットホームとのことなので、間違いなさそう。帰りも、KHさんは、暮を打つ元気がないとのことなので、YOさんと二人で暮を打ちながら、帰った。大分、負けが込んできて、二目にされてしまった。途中疲れて、車窓なども、眺めたが、来るときと同じ、緑というと、オリーブの木しかないような、台地が続く。しかし、時間つぶしには、囲碁は、もってこいで、直ぐ、マドリッドに着いた感じ。



(帰りのアトーチ・レンフェ駅)



(アルハンブラ宮殿内のバラ、KHさん提供)

グラン・ピア駅の近くのカフェテリアのようなところで、遅い昼食。当然、ピノ・ブランコを飲みながら、サラダ、ピザなど三人で食べたか。ホテル・レジエンテは、直ぐで、KHさんは、疲れたとのことなので、(心臓が、少々弱いことを、私は、旅に出て初めて、分かったのであるが・・・) YOさんと地下鉄で、空港へ。アリタリアのカウンターは、大分、探し回ったが、何とか見つけて、KHさんの明日のローマ行きを明後日に、変更してもらった。変更料を、私のカードで支払って、200ユーロとのこと。戻りの地下鉄内は、昼は、至る所に、お巡りさんが、警戒に当たっているの、夜と違って安心のようだ。しかし、夜こそ見回って貰いたいものであるが・・・。ホテルに戻ると、KHさんの寝息が聞こえるが、ドアを何度、叩いても、中々、起きて来ない・・・。相当、疲れて寝込んでいたようで、YOさんは、“何処かに行っているのでは？”などと言うが、確かに、寝息が聞こえるので、相当強く、ドアを叩いて・・・、何とか起きて貰った。

フロントで、“ドンデ エス オフィス デ ポリシア?”と警察署を聞くと、マック製の(地図上に、多くのマックの場所が出ている。)地図に、警察署の場所をマークしてくれた。“グラシャス!”と三人で出かける。通りの名前も聞いたが、良く分からないが、近くまで行ったら、通行人に日本人のアベックがいたので、聞いたが、観光客らしく“知らない。”とのこと。路地の広場のカフェテリアで、食事の家族連れの若いお父さんに、地図を見せながら、聞くと、坂の通りの奥の方を指差しながら教えてくれた。

どうも、警察署の裏口のようなであったが、ポリスのお兄さんが二人立っているので、“キエロ デヌーンシ!”(盗難届けが欲しい。)という、日本人と分かったのか、日本語の分かる若い婦警さんを選んでくれた。婦警さんに付いて三人行くと、何故か、電話での事情聴取となった。ちょっと変な日本語のおばさんのような声であったが、本部にしか流暢な日本語のできるお巡りさんが、居ない為であろうか(?)取られたもの、取られたパスポートNo、二人の住所、何故か、私の場合は、両親とも、既にいらないのであるが、両親の名前等々、聞かれた。私服の背の高い青年が、部屋に入って来たが、

これから勤務のやはり、日本語の話せるお巡りさんであった。相当、日本人が、警察署にはお世話になっている為に、日本語を勉強させられているらしい。私が、スペイン語も難しいが、日本語は、相当難しいでしょうと言うと、スペイン語は、やさしいが、日本語は、比べものにならないほど難しいとのこと。確かに、日本語は、漢字、ひらがな、カタカナ、外来語、沢山あって、世界一難しい部類であろう。

デヌソーシが、やっと貰えるかと、別の待合室で、三人待っていると、若いお巡りさんが、“英語のできる人？”と、入って来た。当初、謙遜して“L i t t l e”と答えながら、付いて行くと、L i t t l e (?)かと、当初、嫌な顔をしていたが、質問は、電話と重複していて、住所、名前、盗難物の名前等のスペルの間違い等の確認だけであったので、スムーズに進んだ。途中から、KHさんも呼んで、同じような確認を行った。会話の途中で、何故か、暑いので、“エン オトニョ シエンブレ アセ カロル？”(秋なのに、何時もこんなに、暑いのですか?)など、余裕のスペイン語での質問を入れたりした。今年は、日本と同じように、特別らしい。大分時間が掛かったが、何とか終わって、二人で、何枚かの書類にサインをして、私も、スペイン語の取られた定期券と古い社員証の”デヌソーシ“を貰った。

待合室で待たされたY Oさんにとっては、相当長い時間を待たされた感じだったようである。途中から、お姉さん達(?)が入って来て、彼が、長く待っているのです、お先にどうぞ、など言われたとか。

警察署の外に出て、時間を聞くと、夜の8時、マドリッドを調べつくしたKHさんに、グラン・ビアからは、歩いても行けそうな近くのブラド美術館は、何時まで開いているか、聞くと、何と、8時まで……。

それでは、せめて、フラメンコの見られる店で、食事でもと、KHさんが、先頭になって探すも、中々、見つからず、結局、ホテル・レジェンテの隣の店が、フラメンコを見ながら、食事のできるレストランのようであったが、既に予約で、一杯とのこと。しばらく、グラン・ビアの通りを歩きながら、大衆居酒屋のような、広めのレストランに入る。“オラ、オラ、オラ、オラ、”と元気なお兄ちゃんカマレロ(給仕)の近くのテーブルに座った。中南米系の感じがするので、“デ ドンデ エス ウステ?”と、出身を聞いたら、‘プエル・トリコ“からだそうだ。”サラダ ベルデ(野菜サラダ)、パタタ フリトス(ポテトフライ)、ピザ、それに、隣で頼んでいた、大きな盛皿の貝や、蟹、鶏肉などとお米をトマトケチャップのようなもので炒めた料理と、当然、“ウナ ポテジャ デ ビノ・ブランコ”を頼んだ。例のカマレロのお兄ちゃんが、“オラ、オラ、オラ、オラ”と元気に運んでくる。

それなりに、いい気分になって、ホテルに帰って、ここのバスタブも大きかったので、ゆっくり、風呂に入って寝た。

○ 10月12日（月）ローマへ。

今日は、まず、KHさんの為に、日本大使館の近くのホテルを探しに、行くことにした。KHさんに、ホテルが見つかったら、我々と一緒に、マドリッド空港に来て、一人で帰る際に、迷子にならないようにしたらと言うと、“行かない！タクシーを使う！”とのことで、日本大使館へも、タクシーを使うと主張。（心臓が、弱いので、地下鉄の階段を嫌ったか、当初の地下鉄の盗難トラウマかは、不明？）ホテルのメガネのお父さんに、タクシーを呼んで貰った。

運ちゃん、地図を見せても、日本大使館は、知らないようで、途中で、ホテルの前で立っているボーイやら、何人かの通行人に、何度も、聞いて、やっと清閑な路地にあった日本大使館の近くに止めてくれた。支払いは、KHさんが、全部払ってくれた。“ケデセ コン ラ ベルデ！”と当然、チップも、弾んだ。三人で、何枚か、記念の写真を撮った後、ホテルを探すも、KHさんは、良く調べていて、この辺は、高級ホテルしかなく、一泊、300ユーロ位するとのことで、中々、地下鉄の駅が、見つからなかったが、地下鉄で、再度、グラン・ビアのホテル・レジエンテに戻り、メガネのお父さんに“アイ ウナ アビタシオン インディビジュアル？”（一人部屋の空き部屋はありますか？）と聞くと、“シー！”（Yes）“とのことで、“インクルジェ デサジュノ？”（朝食も含みますか？）と聞くと、“No！”との返事であったが、一泊、KHさんの分、予約した。60ユーロだったか。

ちょっと、心配ではあったが、KHさんに、別れを告げて、YOさんと私は、通いなれた地下鉄で、空港へ。空港内のカフェテリアで、昼食。待ち時間は、当然、囲碁。



（空港からのマドリッドのメセタ？（台地））

ローマへは、午後の3時頃着いた。レオナルド・エクスプレスも、直ぐ分かったが、テルミニ駅での地下鉄の乗り方が、中々、分からない……。当初、列車用のチケット自動販売機に、挑戦するも、当然、アナニーニャ駅名など出てこない。そのうち、やっ

と、地下鉄の改札近くの自動販売機で買うことが、分かった。(また、何度か、地下鉄を使う内、地下鉄の自動販売機は、コインか、5ユーロ札しか使えないことも分かって来た。)今夜の泊まりのホテルは、A、B線の2ラインしかないうちのA線の終着駅なので間違いないだろうが、車内でも、日本人娘かと話しかけたお姉ちゃんが、一度行ったことのある中国の杭州出身のお姉ちゃん、で、“ニー シー ツォン ナール ディー ファ ライダ?”(どこの出身ですか?)など中国語も交えたりしたが、お姉ちゃんは、何故か、フランス語を交えて、中々、流暢な英語で、間違いなく、アナニーニャ駅に行くこと確認できた。ここは、彼女が降りる際は、“シェ、シェ! ツァイチェン”と別れた。

アナニーニャ駅に着いた際は、雨が降り出し、私は、ビニールの合羽を取り出したが、余り役に立たない。分かり難いタクシー乗り場を、何度も、確認しながら、待って、やっとタクシーに乗り込んだが、急な雨とラッシュの為か、タクシーが、中々、進めなかったが、走ると、地図上では、歩いても行ける距離の感覚であったが、かなりの距離である。着くと、ホテル・アルカディアの中年の小太り気味のお父さんは、英語で、誠に申し訳ないが、団体客が、急に入って、近くの別のホテルに泊まって欲しいとのことで、条件は、変わらないとのことなので、OKした。お父さんに、車で、そのホテル・ローレンスまで送って貰った。ホテルの中年主人が、待っていた。主導権は、どうも、後で、分かったが、ここは、女主人の方が、握っているようで、私が、疲れて、部屋の外に、置きっぱなしになっていたリックを、中に入れるよう注意しに来たりした。部屋は、ベニャ作り(?)の安部屋の感じであるが、日本円にして、4、5千円で、朝食付なので、文句は、言えない。後から、学生団体客のような大勢の客が、この安ホテルに、泊まりこんで来た。着いた際、女主人に、近くのバス停の名前聞くと、バス停名を紙に書いて渡してくれたが、面倒なので、中年主人に、タクシーを呼んで貰ったが、部屋で待つも、大勢の客の混雑の為か、中々、呼んでくれず、催促して、やっと呼んで貰えた。ホテルの地図と名前が入ったカードを貰って、タクシーで、アナニーニャ駅まで、結構掛かる。

地下鉄で、ここは、Y Oさんの提案通り、スペイン広場とトレビノの泉に行くことにした。スペイン広場近くの地下鉄の駅は、“スパーニャ”駅なので間違いない。ローマに来たのが、5、6年前なのに、何処となく覚えていた。スペイン広場は、直ぐで、大勢の観光客で賑わっていた。前は、真昼だったので、狭い感じがしたが、今回は、夕方だったせいか、スペイン広場は、中々、広く感じた。次に行った、“ホンタナ デ トレビノ”(トレビノの泉)も、夕方、大勢の観光客の込んでいる熱気のせいもあるのか、前回、“札幌の時計台の感じ”の、ビルの谷間の、“え! これが・・・”という“狭い感じ”の期待を裏切られた感じが、今回は、しなかったのは、以外だった。通りを歩いていると、“日本語のメニューあります”と日本語で書いてあるメニューの置いてあるレストランがあったので、入ることにした。確かに、日本語であると助かる。

ここでも、野菜サラダに、ピザ、スパゲッティ、ビール、当然、ピノ・ビャンコ(白

ワイン)。帰りは、別の近くの地下鉄駅まで歩いて、A線終着駅のアナニーニャ駅まで戻り、タクシーで、ホテル・ローレンスへ。この安ホテルは、シャワーだけであったが、シャワーを浴びて寝た。



(スペイン広場)



(トレビノの泉)

○ 10月13日(火) ローマ市内見物、帰国のはず!

朝、何故か、昨日の普段着の女主人ではなく、今朝は、凛々しく正装した女主人が、フロントにいた。“ドベ ブラックファースト?”とイタリア語と英語を、ちゃんぽんで話しても、向かいの奥が食堂であること教えてくれる。まあ、在り来たりの朝食だが、安いので文句は言えない。既に、大学生(高校生?)の男子ばかりの生徒とその男女の先生達が、既に食べていた。YOさんと適当に、済ませて、フロントの女主人に、タクシーを呼んでもらった。

アナニーニャ駅までは、今朝は、空いている。髭の年配運ちゃんに、“パルマ リングゼーレ?(英語はなせますか?)”とイタリア語で聞いてみたら、“ポコ ポコ”とスペイン語の“ポコ ポコ(少し、少し)”と似ているイタリア語が返って来た。在り来たりの会話を少々話した。通勤ラッシュもなく、順調な到着。当然、チップは、忘れない。アナニーニャ駅からは、A線の地下鉄一本で、バチカンの近くの駅まで行くことので、ここは、昨夜と同じように、私は、付いて行くことにした。

ところが、昨日は、何ら問題がなくて、安心であったが、結果的には、行過ぎてしまった駅で降りてしまったらしく、駅を降りても、どちらの方向やらも、分からない。仕舞には、YOさん、私が、5、6年前に来たので覚えていると思ったとの言……。

私も、相当に、いい加減だが、YOさんも五十歩百歩である……。

さて、困ったが、通り掛かった、おばちゃんに、ホテルで買って来たローマ市内地図のバチカン指差して“ドベ、バチカン?”繰り返すと、あのバスが行くと、来たバスを指差すので乗り込む。バスの中の青年に、“パルマ リングゼーレ?”聞くと“Yes!”とのことで、このバスは、バチカンの近く行くか尋ねると、このバスは、行かなくて、64番のバスが行くととのことで、慌てて、お金も払わず、近くの駐車場で降りた。待っ

ていると、そのうち、64番のバスが、来たので乗り込む……。中で、中年のおばちゃんに、” パルマ リングゼーレ？ “聞くと、” No No ! “と言いながら、バスの中の一段高い席に座っている中国女性を指差す。彼女に、英語で、このバスは、バチカンに行くか聞くと、行くし、教えてくれるとのこと。結局、彼女と一緒に降りて、バチカンの入り口まで、付いて来てくれた(?)のか、たまたま、帰り道が一緒だったのか不明だが、入り口の見えるところで、” フェイチャン ガンシエ! ツアイチェン! “(大変有難う御座いました。再見!)と別れた。上海からの留学生とのことであった。彼女に、途中で、バスの支払い聞くとプリペードカードを前もって買っておいて、乗る際、支払うそうであったが、我々は、知らないことをいいことに、タダ乗りしてしまった。



(午前中から、沢山の列のバチカン)

午前中は、沢山の観光客で、一度見た荘厳なバチカン宮殿内には、入れそうもないので、空く夕方にも再度、来ようと、地下鉄の駅まで、苦労して歩いて探した。知らない道は、遠く感じるが、余りと遠回りもせず、地下鉄駅まで歩いたか。

A線から、B線へは、テルミニ駅で乗り換える。混んで来たテルミニ駅近くで、乗客が、騒ぎ出した。英語だったか、イタリア語だったか忘れたが、YOさんに、何か取られたものは、無いかというようなことを尋ねている。確かに、中南米系のインディオのおばちゃんが、YOさんに、ぴったり張り付いていた。お腹が出ているので、そのお腹で見えないようにして、YOさんのポシェットを開けたらしい。運よく、ポシェットには、何も入っておらず、(YOさんも、手で押さえたとのこと)チャックは、開けられていたが、取られたものは、無かったらしい。親切な乗客には、'Nothing! Nothing!'と取られたものは無い旨答えると、そのインディオのおばちゃんは、あたふたと、降りていった。危ない、危ない!

テルミニ駅で乗り換えて、B線で、コロッセアム駅へ。



(コロッセアム)



(コロナ宮殿)

地下鉄を降りると、直ぐに、コロッセアムが見える。観光客で賑わっており、ＹＯさんが、言うには、まず、フェロ・ロマーナに入場すると、コロッセアムの入場券も付いているとのこと。コロッセアムの前あたりで、中近東系のお兄ちゃんが、日本語で、“稲本、中田”などと話し掛けて来る。しばらくして、二人で休んでいると、先程のお兄ちゃん達、ＹＯさんの腕に、“私とあなたは、友だち、友だち！”など日本語で調子を取りながら、すばやい動作で、腕輪を編んできた。赤、白、ブルーの三色だったか。私も、近くで、何の気なしに、ローマの戦士の格好したおじさんなど見ていたら、ＹＯさんと先程のお兄ちゃん達が揉め出した。“どうした？”と聞くと、お金を払えと揉め出したとのこと。25ユーロ払えとのこと。お兄ちゃん達も、三人はいたか。“We are poor!” Twenty! と言うと、Twenty Four! と来た。“No No! Twenty!” と言うと、それでは、Twentyで、日本語で“手打ちだ!” と日本人のカモには、慣れている。後で、ＹＯさんに聞くと、当初、“千円払え!” とのことだったが、リックの底に在る財布を出すと財布ごと取られちゃうと思ってユーロしかないと言ったそうだが、それなら、10ユーロで充分だったのにと、二人で、悔しがっても、後の祭り。

教訓6. 観光地で話し掛けて来る人（特に、日本語で）、相手にしないこと!

(特に、日本人は、特別のカモのようで、日本語で、話しかけてきたら、“ニー・ハオ!” “アンニョ・ハセヨー!” 等日本語以外で答えるのも一考か。)

フェロ・ロマーノに入る前に、コロナ宮殿の裏側の坂道が、ＹＯさんの調べて来た“観光客の行かない穴場スポット”とのことで行くことにした。途中で、持って来たデジカメの電池が切れてしまったので、インディオ系のおじさんの売っているコダックの撮りっきりカメラを買った。ＹＯさんも、同じものを買ったが、彼のカメラは、自動フラッシュなのに、私のものは、手動で、ヤバイもの買わされたかと思ったが、帰ってからの現像は、正常だった。コロナ宮殿を、ぐるり回って、裏の方に行くと、階段の坂

道があり、登って行くと（ジェズ教会か？）、教会の中に、入って行き、しばらく、教会内の椅子に腰掛けたりして、見物をしてから、別の出口から、ベネツェ広場だったか、広場に下りて、コロナ宮殿に、VIPが、来たのか、人混みと警備員もいる中に、黒塗りの車が何台か入って来た。その通りの坂道を降りて、先程、コロッセウムから来た通りに戻り、フェロ・ロマーノの入場売り場近くに、レストランがあったので、昼食に、入ることにした。

フェロ・ロマーノの入場には、大して並ばずに、入れた。5、6年前に、来た時は、私の記憶では、この辺は、入場料など払わずに、歩けた記憶があるが……。近くの美術館等も含めて、有料になったらしい。



（カエサルも、嘗ては、歩いたかのフェロ・ロマーノ）



（美術館の展示物）

フェロ・ロマーノを出ると、コロッセウムの前になる。前回は、入場料を買うのに、長蛇の列の為に、並ぶ気がなくて、断念したが、今回は、Y〇さん調査のお陰で、フェロ・ロマーノの入場券と一緒に買ったので、入場券売り場は、混雑していたが、我々は、すんなり入れた。



(コロッセウム内部)



(コロッセアムの凱旋門、ＹＯさん提供)

コロッセアムの内部の高いところを一周して、戻った。相当歩いたので、ＹＯさんは、元気で、“観光客の行かない穴場スポット”が、この近くで、歩いて行ける所にあるとのことで、見に行くとのことであるので、私は、疲れたので、凱旋門の近くの高台で休んで待っていることにした。持って来た“ブラックホールを見つけた男”と詰め暮の本を読んで待っていた。一時間から、一時間半くらいで戻って来たので、帰ることにした。午前中の中東系のアラブのお兄ちゃん達いるのでは？ などと話していたら、遠くから、案の定、日本語で“オーイ、貧乏！貧乏！”など叫んでいた。全く、日本人を舐めている。

昨夜のレストランが、美味しかったし、もう今日で、帰国なので、全財産(?)使っ
てしまおうと、また、スパニャ駅へ。何と、午前中のインディオのおばちゃんスリ、
またしても、テルミニ駅近くの地下鉄内に、今度は、女の子連れで現れた。子供は、私
が、ポシエットを手で押さえているので、私のリックのチャックを開けだした。“No!
No!”と怒鳴ると、手を引っ込めた。今度は、おばちゃんが、私のところに、近付い
て来たので、“No!No!”と追っ払った。すると、隣の女性を襲ったらしく、その
女性の叫びで、あたふたと降りていった。相当トロイ、子連れスリではある。
教訓7. スリは、ポシエット狙うので、逆に、取られてもよいもの入れておく。

スパニャ駅で降りて、ぶらぶら歩き回ったが、街路地に机を出してテントを張ったレストランで食べることにした。スパゲティに、野菜サラダ、ピザと定番で、それに、当然、ビールに、ビノ・ビャンコ。時間は、充分有るので、テルミニ駅まで、歩いて行った。

少々、酔っ払ったせいであろうか、通常なら、分かっている、しつこいくらい行き先を確認するのであるが、また、今回は、二度目の自信のせい、ホームの近くの切符売り場で切符を買おうと、正に、発車しようとしている列車に飛び乗った。今考えると、その時、車掌も、近くにいたので“エアポート？”でも、何でも、怒鳴ればよかったのに、何も聞かずに、飛び乗って、私は、少々、酔っ払い気味で、うとうとしていると、YOさんが、いきなり、“栗ちゃん、どうもおかしい、30分で着くはずなのに、もう、一時間以上も乗っている！”どうも、間違っただけに飛び乗ったようだ。近くの青年に、“パルマ、リングレーゼ？”と聞くと、“Yes！”とのことで、空港に行くはずで、21時50分の飛行機に乗りたのであるが、どうしたらよいか、聞いてみた。大丈夫ですよ！我々と駅で降りて、タクシーで空港に行けば、50分で着くとのことで、まだ、二時間近くは時間が有り、一安心！

その際、運ちゃんは、英語が分からないだろうから、我々は、ユーロが無くて、YOさんを、車に残して、私が、両替換金して、払いに戻る旨、運ちゃんに、イタリア語で説明してくれるように頼むと、OKしてくれて、三人で、タクシー乗り場で待つも、タクシーは、待てど、暮らせど、一台も来ない！そのうち、この親切な青年も、“英語で大丈夫ですから”と帰ってしまった。慌てて、駅員のような人に、“Please call me taxi！”頼むも、通じないのか、肩をすぼめるだけ！近くのお兄ちゃんに、英語で、聞くと、この辺には、タクシーが少ないとのことで、待つしかないとのことらしい。空港に、電話を入れようとするが、この辺の公衆電話は、コインでは掛からないようで、諦めた。

刻々と時間は、過ぎて行き……、ついに、アウト！

教訓8. 外国での移動の際は、禁酒？

教訓9. 移動の際の乗り物の行き先は、自信があっても確認する。

さて、どうするか？ まずは、ローマに戻ろう。帰りの列車は、二人とも、もう帰るつもりで、飲み食いしたので、ユーロが、残り少ないので、ただ乗りしようと、決め込んで、来た、車掌に、レオナルド・エキスプレスの切符を見せながら、“We mistook！”で許してくれず、しっかり、二人分、払わされた。ユーロが、ないので、カードで支払った。懲りずに、ここでも、暮を打ちながら、戻った。この車掌さんに我々の間違っただけに駅名を“Civitavecchia”を教わった。全く、チビッチャイますヨ！

テルミ二駅に着いて、5、6年前、一回来たただけだが、泊まったホテル街を覚えており、歩いていった。前回、泊まった『トリノ ホテル』も、分かったが、近くのホテルの看板と明かりのついている『Hotel Nizza』で聞いてみることにした。フロントには、中年のお姉さんが、一人で、一人の男性が、今夜、泊まるらしく、手続きしていた。二人部屋、一泊、90ユーロとのことで、朝飯も付くとのことで、泊まることにした。部屋は、5階で、エレベーターが、一台のみ有り、二人で乗る。何の気なしに、ここは、4のボタンを押すと、ガガガガーと動き出したが、途中で、何と、止ってしまった！ いやはや、悪いことが続くと続くものだが、こりゃ理由が分からん！ 仕方が無いので、エレベーターのボタンの一番上のベルのマークのボタンがあるので押す。ビー・ビー・ビーと鳴り渡るが、誰も応答してこない。私など、トラブル続きで落ちぶれてしまって、エレベーターの床に、座り込んでしまった。YOさんが、押し続けていたら、やっと、誰かが、気づいてくれたらしく、私の“What we can do!”との声に、2番を押せとのことで、2番を押すが、何の反応もなし！ 狭いエレベーター内の、こんな閉じ籠もりは、相当長く感じるものだが、多分、三、四十分は、閉じ込められた感じ…。そのうち、黒人の少年が、ガラガラと扉を開けてくれた。“What” s happened?”と聞くと、“I don” t know!とそっけない。フロントのお姉さんにも、“This is first time?”と聞くも、“I am sorry!”と簡単！ 理由は、全く分からない。仕方が無いので、5階まで階段を歩いて上がった。部屋は、広いが、古臭い感じである。明け方少し寒いので、毛布を探すが、無い。フロントへの電話が、分からないので、階段を下りてフロントに行くと、お姉さんから、今度は、中東系の黒茶系の背広のおじさんに代わっていて、何で、9番で、電話して来ないとの、そっけない返事だが、持って来てくれるとのことで、部屋に戻る。待てども、毛布は持って来ない。フロントに電話入れると、蕎麦屋の出前宜しく、直ぐ持って行くとのこと。しばらくしても、持ってこないで、また、また、電話入れると、持って行ったが、ドアが閉まっていたので戻ってきたとのこと。それでは、取りに行くと、フロントに行くと、何と先程の話は、うそで、中近東のおじさん、鍵束を持って、私と一緒に倉庫部屋へ。ハカヤローと言いたいが、うまい英語が出て来ない。時々、早口の英語でまくし立てるので、“Pardon?”を連発していたら、いいから、戻れといった態度を取り、自分の非を認めようとしな。頭にきたが、毛布を受けとって、黙って部屋に戻った。不愉快な思いより、トラブルでの疲れの方が、強く、シャワーを浴びて、直ぐに、ベッドにダウンした。不思議なくらいに、今回の旅は、トラブルが、続くものである。それにしても、エレベーター閉じ籠もりは、全く不可解であった。

○ 10月14日(水)～15日(木) 帰国

朝起きて、ベッドの上で、ローマ空港から、我々が、乗らなかったのに、KHさんが、心配しているだろうからと、携帯の電源を入れて、彼の携帯の電話番号を調べようとしたら、何と、何通も、メールが届くし、携帯のアンテナ表示が、立っている。メールを調べると、何と、古くからの親友の暮敵のTKさんの奥さんからで、10月11日(日)に、ここ一年位、すい臓癌で入院していたTKさんが、亡くなったとのこと。トラブル続きの惨めな状況と重なった為か、自分の父母の葬儀でも(父、80歳、母、99歳)、泣かなかったのであるが、YOさんを前にしても、思わず、“私は、弟がいなくて、弟のように思っていたのに・・・”。と思わず、涙が込み上げてきて来てしまった。

もう一通のメールは、カミさんからで、囲碁部のTOさんから、電話連絡があり、TKさんが、亡くなって、通夜が、14日、告別式が、15日との内容のメールだった。トラブルは、続くもので、飛行機乗り遅れた為に、これで、通夜も、告別式にも、出られなくなってしまった。携帯のアンテナが、立っているのに、ローマと東京の時差が、7時間なので、今、朝8時ごろなので、東京は、15時頃、ここは、まず、会社の社長に、“ローマで、どじって、飛行機に乗り遅れてしまったので、もう一日、休暇をください。”と電話した。また、カミさんにも、その旨、電話した。YOさんの携帯は、古い型らしく、使えないとのことなので、14日(水)東京に戻ったら、飲む約束していた友人と、家への電話に、使ってもらった。

朝食は、フロントの奥にあって、軽く済ませ、KHさんは、14日午後5時ごろ、成田に着くので、こちらの、10時ごろ電話することにして、まず、お金がないので、テルミニ駅で両替することにした。

今度は、間違えることなく、レオナルド・エクスプレスで、ローマ空港へ。10時ごろ、KHさんの携帯にも、連絡入れた。“ヒヤ、ヒヤもんで、やっと、何とか戻ったとのこと。”まずは、一安心。(後で、聞いたら、ローマからではなく、東京から電話をして来たかと思った由。)

ローマ空港で、航空券は、諦めるしかないかと、アリタリアのカウンターを探したが、これが、中々、見つからない。やっと見つけて、eチケット見せると、何と、KHさんの日程変更と同じ額のペナルティ200ユーロで、帰れる由。更に、夜の21:50分の飛行機まで待たなくて、午後の2時台の飛行機に、乗れるとのこと。何故か、アリタリアのコンピュータが、認識してくれないとのことで、今まで何処でも使えた、私のマスターカードが、使えなく、カウンターのお姉さんの指示で、両替所で、カードで、換金して、払ったが、後で、支払い通知で分かったが、利子が、相当取られて、カードでの両替所での換金は、相当に、損である。

(教訓10. カードでの両替所での換金は、相当、損である。)

成田には、15日(木)の午前10時ごろ、着くので、旅行の格好ではあるが、TKさんの告別式には、間に合えば、格好は、許してもらってでも、出席しようと思った。空港での待ち時間には、愛妻家のYOさんは、奥さんと、息子さんへのお土産を沢山買い込んでいた。帰りの飛行機は、満席らしく、当然、YOさんとは、バラバラで、時間つぶしの囲碁も打てなかった。私の周りは、日本人の団体観光ばかりで、新婚さんのカップルの多い席だった。この際、隣のカップルに、ローマでのエレベータ閉じ籠もり、毛布事件の顛末を話したら、ローマ、フィレンツェ、ナポリ等の観光旅行であったそうだが、イタリアのホテルには、何処でも、毛布が置いてなかった由。

やっと、成田に、10時ごろ、着きました。早速、告別式に、出るであろう、ICさんの携帯に、電話を入れると、残念ながら、朝の9時ごろからの早い告別式で、丁度終わったところだった。京成電車で上野駅に出て、駅前のレストランで昼食、夕方、元の会社のT社本社の和室で、今日は、中国の成都出身の美人棋士HR女史の指導碁の日で、出席できるので、行くことにした。夕方まで、時間が有るので、時間つぶしに、YOさんが、何局か打とうとのことで、二目にさせられたままなので、“対”にしようと、私も頑張って、二目の角番まで行くが、残念ながら、角番のままで終わってしまった。浜松町では、碁の仲間と、指導碁の後、いつも飲むが、今回のトラブル続きの旅行を話して、終わってみれば、大笑いものでは、あったが、TKさんの突然の不幸もあり、複雑な気分の飲み会ではあった。昭島の家には、それでも、10時過ぎには、帰宅できた。やれやれ、今回は、相当疲れた旅行でした。

○ エピローグ

17日(土)千葉のTKさんのマンションを尋ね、お線香を上げに行ってきた。奥様と息子さんがいらしたが、お元気そうなのが、せめてもの救いだった。改めて、御冥福を祈念致します。

15日(木)の上野駅で、取られた定期券、まだ、3ヶ月は残っていたので、3ヶ月の定期券を買ったが、(スイカにも、5千円くらい入っていたので、5万円くらい被害にあったかと思っていたが、)その後、大塚駅で、スペインで取られた旨を話したら、流石、電算化効果で、スイカの残高も含めて再発行してくれ、被害は、軽微だった。

グラナダからの帰りの列車の中であったか、来年は、スペイン語の旅行なら、何とか、できるようになった(?)ので、『メキシコシティ&サンフランシスコ』旅行は、どうですかと、KHさん、YOさんに聞いたら、KHさんは、メキシコシティは、高原だし、心臓が、少々、弱いせいもあってか、はたまた、今回のトラブル続きに懲りたのか(?), 即座のNG回答。YOさんは、当然、行きましようとの快諾。

さて、重い思いをして、今回の旅行にまで、持って行った、アーサー・I・ミラー著

の『ブラックホールを見つけた男』を読み終えた。世の中には、不思議なことばかりであり、19歳のインドの天才少年スブラニアン・チャンドラセカール(チャンドラ)は、星の状態方程式から、ブラックホールの存在を導き出した。そして、時の天体物理学者の大御所のエディントンから、徹底的に、批判されて、日の目を見ずに、戦後まで、無視された。チャンドラは、戦後も、83年になってから、ノーベル賞を受賞した。チャンドラセカール限界(これを超える重量の星は、ブラックホールになる。)、シュワルツシュルツ半径(ブラックホールから、光も抜け出せない半径。)等々、世の中には、分からないことばかりである。また、現在、弊社も、若者たちの仕事が、見つからない。(これ、見つけるのが、私のミッション。)つい最近までは、共産主義社会が、崩壊し、新古典派経済、新自由主義が、世の中を良くすると思われていたが、ここに来て、米国のプライムローン金融危機から、世界中の景気が悪くなり、日本の景気も悪くなり、弊社でも、若者の仕事が、なくなる……。全く、景気変動を繰り返す経済の世界も、分からない世界である。まあ、世の中の需要予測が、難しいからであろうが、このままでは……。私も、何も分からず終いで、人生を終わってしまうような気もする。せめて、行ける時に、行ったことのない国々だけでも、旅行してみたいものであると改めて思う今日この頃である。

(中年からの海外旅行 第十二章完)